

備前市事務事業評価表

(平成17年度事業)

事務事業名	非常備消防施設管理事業		コード	消防防災係
			01-04-02-07	担当者 中島和久
事業実施期間	平成17年～		電話	64-1809
総合計画 事業(政策)体系	大項目	安全で快適に暮らせるまちづくり		
	中項目	安全で安心して暮らせるまちづくり		
	小項目	消防・防災		
	施策	消防体制の整備・充実		

事業について	
目的	消防団の消防器庫(詰所)等を維持、管理することにより、災害時での消防団や地元地域の活動の拠点として、円滑な災害対応を図る。
対象(誰のために)	消防団、地元住民
内容	消防器庫の光熱水費、火災保険、消防用ホースの整備

事業の結果	
実施項目	17年度
	回数など(単位)
消防器庫数	74 箇所
ホース数	67 本

事業費 (単位:千円)	事業費		財源		事業費		財源	
	直接事業費	2,480	国庫補助金等		直接事業費		国庫補助金等	
	人件費	2,420	受益者負担		人件費		受益者負担	
	合計	4,900	市債	4,900	合計	0	市債	0

必要人員	0.35	人
結果指標名	消防器庫数	
結果指標量	74	
単位	箇所	
対前年比	—	0.00%

結果指標①	事業費	2,203,000	円
単位当たりコスト①		29,770	円
結果指標名	ホース数		
結果指標量	67		
単位	本		
対前年比	—	0.00%	
結果指標②	事業費	2,697,000	円
単位当たりコスト②		40,254	円

事業の成果			
成果指標名	消防器庫1箇所当たりの維持、管理費用	式又は説明	事業費(2,203千円)÷消防器庫箇所数(74箇所) 平成17年度を基準に、1箇所当たりの維持管理費用を抑える
成果指標量	17年度 29,770		
対前年比	—	0.00%	
到達目標値	29,700	到達目標年度	毎年度

事務事業の評価		課題認識
目的・対象・内容の妥当性評価	目的の妥当性	消防器庫(詰所)は、消防団の活動拠点のみならず、地域の防災拠点として重要な施設である。適切な維持管理を実施することができた。
	対象の妥当性	
	市民ニーズの妥当性	
効率性の評価	コストの効率化	消防器庫の電気代、水道代の経費を毎月確認することにより、適切な維持管理ができた。
	手段の最適化	
	職場の効率化	
有効性の評価	目的達成度	—
	成果向上の可能性	
	市民参画度	

総合評価		評価区分 <A~E>
コメント	消防器庫箇所の統廃合も視野に入れて、必要最低限度の箇所数を検討すべきである。	C

今後の方向性	<input type="checkbox"/> さらに重点化する(行政資源を集中的に投入する) <input type="checkbox"/> 事業の縮小を検討する <input type="checkbox"/> 現状のまま継続する <input type="checkbox"/> 休止・廃止を検討する <input checked="" type="checkbox"/> 見直しのうえで継続する <input type="checkbox"/> 完了・統合
翌年度結果指標量①	結果指標量②
目標値	成果指標量

改善事項			
評価の視点	改善内容	改善時期	改善により期待される効果
効率性	効率のよい消防団の消防器庫の配置を検討すべき	平成20年度以降	消防器庫の維持管理費の削減

事業の目的、対象、内容を考えながら目的の妥当性の評価を行って下さい。

事業費や単位当たりコストに留意しながら効率性の評価を行って下さい。

事業の目的やその数値目標である成果指標に留意しながら有効性の評価を行って下さい。

00411: 消防器庫に係る光熱水費、保険の合計額(1,115千円)とホース購入費(1,365千円)に人件費(2,420千円)を按分して計算
4,900*(1,115/2,480)=2,203千円

00411: 事業費の合計額から2,203千円を差し引いた額4,900-2,203=2,697千円